

国内経済情勢

概 観

このところ生産、出荷は毎月増減をくり返しているが、大勢としてはいずれも引き続き増加基調にあるとみられる。設備投資、消費、輸出など最終需要の動きも依然根強いものがある。

もっとも、鉄鋼等の商品市況は市場人気の弱まりや資金繰り窮屈化に伴う中間需要の減退などから、このところ落着きぎみに推移しているが、反面、二次、三次製品については価格引上げの動きがあいついでいる。また労働力需給のひっ迫などを背景に、春の賃上げ率は前年を上回る向きが多いようである。

金融機関の融資態度は抑制色をさらに強めており、これを映じて預金通貨は高水準のうちにも増勢がやや鈍化してきている。一方企業の資金需要は依然おう盛で、このため目先決算資金流出期を控えて資金繰り窮屈感が加わっており、支払条件悪化の動きも広がりを見せている。

3月の国際収支は貿易収支の大幅黒字を主因に引き続き黒字を示した。

3月の生産は微減、出荷は増加

鉱工業生産(季節調整済み)は、2月に前月比+2.5%と高い伸びを示したあと、3月(速報)は-0.2%の微減となった。財別にみると、一般資本財(化学機械、工作機械等)や建設資材(橋りょう、板ガラス等)が前月著増の反動もあって減少したほか、耐久

消費財、資本財輸送機械も在庫調整中の夏物家電製品やトラックを中心に減少したが、生産財は前2ヵ月減少の鉄鋼を主にかなりの増加を示した。

一方、鉱工業出荷(季節調整済み)は、2月に前月比+0.3%と微増のあと、3月(速報)は+5.3%の大幅増加となった。これは主として船舶の引渡し集中によるものであるが(船舶を除くと前月比+0.8%)、その他の財も建設資材以外は軒並みに増加を示した。

この間、生産者製品在庫(季節調整済み)は、2月減少(前月比-0.7%)のあと、3月(速報)は前月比+0.6%の微増を示した。また、製品在庫率指数(88.5、前月92.7)は前月比かなり低下したが、船舶による変動を除けばほぼ横ばいとなっている(3月91.5、前月91.7)。

なお、44年度平均の生産、出荷は前年度比それぞれ+17.7%、+18.1%と43年度(生産+17.2%、出荷+15.9%)を上回る高い伸びとなった。

設備投資と関連の深い一般資本財出荷は、2月に前月比-0.6%と微減のあと、3月(速報)は+1.4%と引き続き根強い増勢を示している。一方、先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、2月著増(前月比+36.4%)の反動減から、3月は-1.8%の小幅減少をみたが、1~3月中では前期比+16.4%の大幅増加となった。なお、4~6月の見通しでも引き続きかなりの伸び(前期比+6.6%)が見込まれている。

この間、労働力需給はひっ迫状態を続けており、春の賃上げ交渉は前年を上回る高い賃上げ率

で妥結をみつつある。

3月の全国百貨店売上高は、前年同月比+21.8%と高い伸びを示し、4月も東京百貨店売上高は高水準に推移した模様で、個人消費は引き続き根強い増勢をたどっているものとみられる。

物価は引き続き上昇

最近の商品市況をみると、天然繊維、化学製品等は続伸ないし強含みの反面、鉄鋼が続落したほか、合成繊維、上質紙、木材等も弱含みを示すなど、品目により区々ながら総じてみれば引き続き落着きぎみに推移している。

このうち鉄鋼、木材等の軟調は、資金面の制約もあって一部の商社や実需筋が手当て買いを慎重化していることによる面が大きいとみられる。一方、天然繊維の上伸には、おもわく筋の買進みのほか、流通段階を中心とする在庫調整の一巡や季節需要の台頭も響いているようである。

3月の卸売物価は、非鉄金属、繊維品、機械器具を中心にほぼ全面高となり、総平均では前月比+0.4%の続騰を示した。4月にはいつてからも上旬は前旬比+0.3%の大幅上昇となったが、中旬は季節的事情による食料品の下落や鉄鋼の続落を主因に10ヵ月ぶりに-0.1%の反落をみた。なお、44年度の卸売物価は年度間+5.0%、年度平均+3.2%(前年度それぞれ+0.5%、+0.6%)と31年度以来の大幅上昇となった。

一方、消費者物価(東京)は、3月に前月比+1.2%の大幅上昇をみたあと、4月(速報)も食料、雑費、被服等の高騰から+0.9%(季節商品を除けば+0.7%)と続騰し、前年同月比では+8.0%(季節商品を除けば+6.0%)の大幅上昇となった。

預金通貨の増勢はやや鈍化

4月の銀行券は、上、中旬中順調な還流を示

し、月中では78億円の発行超(前年同 307 億円)にとどまった。一方、財政資金は、税金が多額に上ったものの、地方交付金、公共事業関係費、一般会計諸払などの支出がかさみ、外為会計も払超を示したため、月中4,030億円の払超(前年同4,296億円)となった。この結果、金融市場では多額の資金余剰を生じたが、本行は短資業者に対する政府短期証券の売却などにより調整を図った。この間、コール・レートは季節的な資金余剰期入りから4月月初に各条件物とも一律0.25%低下し、通月保合いに推移した。

銀行券の月中平均発行残高の前年同月比増加率は、3月+19.4%のあと、4月は+19.5%と依然高水準を続けている。一方、1～3月中の預金通貨の月末平均残高(一部推計を含む)は、前年同期比+19.8%(10～12月同+21.9%)と引き続き高い水準にあるものの、銀行などの融資抑制を映じて増勢はやや鈍化してきている。なお、手形交換高との対比でみた預金通貨の回転率も引き続き上昇しており、企業金融の繁忙化を示している。

3月の全国銀行貸出は、年度末決済資金貸出を中心に月中5,805億円の増加となったが、前年同月(5,626億円増)と比べれば+3.2%の増加にとどまり、月末残高の前年同月比伸び率も+16.3%(前月+16.5%)とわずかながら低下した。月中貸出増加額を業態別にみると、都市銀行、地方銀行はほぼ前年同月並みとなり、長期信用銀行も前年比若干の増加にとどまった。一方、中小企業金融機関の貸出は、相互銀行が引き続き前年同月をわずかながら下回ったのに対し、信用金庫は依然大幅な増加を示した。

企業の資金需要は、おう盛な設備・運転需資に加え、販売代金の回収悪化もあって引き続き高水

準にあるが、金融機関の融資態度は、都市銀行がさらに抑制色を増しているほか、地方銀行や大手相互銀行も資金面の制約から選別方針をいっそう強めている。このため企業の資金繰りは目先決算資金流出期を控えて窮屈感が加わっており、支払条件悪化の動きも広がっている。

この間、全国銀行貸出約定平均金利は、3月も前月(月中0.004%上昇)に引き続き月中0.005%の微上昇にとどまった。

公社債市況は、2月後半から3月にかけて短期ものを中心に軟化したが、4月にはいつてからは企業の保有債券の換金売り一巡もあり落着き模様となっている。なお、株式市況は4月上旬に新高値をつけたあと、高値警戒観から見送り気分が強まり、市場内部要因も加わって軟調をたどってきたが、4月末に至り、海外市況の下落や外人投資家の売りが大きく響いて急落を示した。

貿易収支は引き続き大幅黒字

3月の国際収支は、貿易収支が399百万ドルの大幅黒字(前月同230百万ドル)となったため、長期資本収支(赤字175百万ドル、前月同52百万ドル)は本行の世界銀行に対する貸付実行などから、また貿易外および移転収支(赤字223百万ドル、前月同139百万ドル)も期末の特殊事情を主因に、いずれも赤字幅を拡大したものの、総合収支では月中167百万ドルの黒字(前月同97百万ドル)となった。

この間、金融勘定では、為替銀行の対外短期ポジションは輸出好調に伴う買持輸出手形の増加にもかかわらず、外銀借入れの増加やユーロ・マネーの回収などから74百万ドルの悪化を示し、外貨準備は月中238百万ドルの増加となった。なお、4月の外貨準備は月中55百万ドル増加し、月末残

高は3,923百万ドルとなった。

3月の貿易収支を季節調整後でみると、輸入が前月比+2.3%と増勢を続けた一方、輸出も+1.6%と順調な伸びを示したため、収支差額では317百万ドルと前月(320百万ドル)並みの大幅黒字となった。

3月の輸出は前年同月比では+20.7%(前月+23.9%)となった。品目別にみると、綿織物、陶磁器等は低調ながら、化学製品、鉄鋼、ラジオ等が引き続き高い伸びを示し、仕向け先別には西欧、中南米、中共向けの好調が目だった。なお3月の輸出信用状受額は前年同月比+20.0%となり、4月も同+21.8%と高水準を持続したが、米国内向けはこのところ伸び率が鈍化している。

一方、3月の輸入は前年同月比+33.2%(前月+29.3%)と増勢を続けた。品目別にみると、鉄鋼・非鉄原料が高い伸びを示したほか、機械、木材、化学製品もかなりの増加となった。先行指標である輸入承認額も3月は前年同月比+33.9%と引き続き高水準にある。

なお、44年度の国際収支は、輸入の著増(前年度比+22.1%、前年度同+10.6%)にもかかわらず、輸出の好調持続(+22.5%、前年度+27.3%)から貿易収支が3,732百万ドルの大幅黒字(前年度同3,018百万ドル)となったほか、短期資本収支もBCユーザンスの増加を主因に368百万ドルの黒字(前年度同88百万ドル)を示した。一方、長期資本収支は本邦資本の大幅流出から外人証券投資(流入超782百万ドル、前年度344百万ドル)の増加にもかかわらず648百万ドルの流出超(前年度同82百万ドル)となり、総合収支では年度間1,989百万ドルと既往最高の黒字(前年度同1,627百万ドル)を記録した。(昭和45年5月8日)